公益社団法人　全国自治体病院協議会

原義人副会長　インタビュー

新たに公益社団法人　全国自治体病院協議会の副会長にご就任された青梅市病院事業管理者兼青梅市立総合病院長　原義人先生に「抱負」についてお聞きしました。又、青梅市立総合病院の「特色」や賛助会への「要望」についてもお話をお伺いしました。お忙しい中でのインタビューでしたが、笑顔を絶やさず、親切丁寧にお話をして頂き、院長先生の患者だけでなく、病院職員にも気配りをされておられると感じられ、実直な優しいお人柄が良く伝わってまいりました。

医療の質、医療の安全をしっかり盛りたてていきたい

聞き手：全国自治体病院協議会・賛助会
市川秀和　会長
伊藤誠　副会長
宮田賢次　副会長
重田和彦　第２回研修委員
平岡秀一　広報委員長

■自治体病院の役割

自治体病院は、地域医療の中核を担うだけでなく他の病院ではやらないような不採算部門も積極的に行っておられるとお聞きしています。

原副会長

その通りで、自治体病院の本当の役割は、先ずは救急だと思います。後は他がやらない小児、周産期、そこをしっかりやって、更に周りにあまりやるところがなければ、高度な医療でがんだとか循環器とかね。そういうことをやっていけたらいいと思う。青梅は、周りにそのような事を強力にやっている病院が無いものだから、当院がそれら全部をやっているけど、何はともあれ救急がとても大事だと思っています。

■抱負

副会長にご就任にされての抱負について教えて下さい。

原副会長

全国自治体病院協議会の中で、診療報酬（DPCも含めて）、それから診療情報、医療の質や医療の安全といった分野が、私の担当ですので、その辺をしっかりとやっていきたいと思っています。
幸い医療の質に関しては、今度皆さんの前でお話することになっていますね。
ついこの前まで（平成22年4月から25年3月）、日本医療安全調査機構という、医療事故があったときに第三者的に事故調査を実施し報告書を作成する機構の中央事務局長を務めていましたので、医療事故調査に関しては、かなりの経験を積んできました。そういう経験もこれから活かせるのではないかと考えています。
診療報酬に関しては、もう7～8年全自病協の診療報酬対策委員会の副委員長の立場でやってきていますし、日本病院団体協議会の実務者会議の委員も務めています。
以上、抱負は、遵見先生をしっかり補佐することと、自分が担当になった分野に関して着実に仕事をしていきたいと思っています。

■特色

青梅市立総合病院の特色はなんでしょうか。

原副会長

当院には救命救急センターがあり、30床です。さらに地域がん診療連携拠点病院でもあります。従って、救急の超重症から、がんのような比較的慢性であるものの高度な医療が必要な病気まで広く対応しています。また、365日24時間の小児救急と休日全夜間の救急が、東京都に指定されていて、ここ西多摩保険医療圏では、ここだけです。産婦人科もがんばっています。うちの産婦人科はすごいんですよ。帝王切開が必要だというと、何分で手術の準備が出来ると思いますか。たった15分です。それを、しょっちゅう訓練している。帝王切開が必要だという判断が下ったら、手術室と連携して、帝王切開がすぐできる、それだけ母子の救命率が高いと思います。非常に頑張っていると思う。でも年々分娩が減ってきて、昔は年間1300件あったけど今は、800件。少子化のためでしょうね。周りがどんどん分娩を扱うようになっているわけじゃないから、減っていると云う事は都心に流れているか、里帰り出産でどこかでやっているか。だけどそんな昔と変わりがないと思うので、やっぱり絶対数が減っていると思っています。
後は、循環器が頑張っている。PCIというステントを挿入する治療だとか、特に、心房細動などの不整脈の電気的治療がすごく得意です。これをアブレーションといっていますが年間200件以上やっています。
また、内科の全領域に優秀な専門医がいることも大きな特色です。

■今後の課題

原副会長

一番の課題は、病院の建て替えです。昨年度に基本構想を作って、今年度は基本計画に着手したところです。今年4月に総務省が新公立病院改革ガイドラインを出しました。その第1番目に、地域医療構想が策定されたらそれに整合するよう病院機能を明確化し、それに沿った計画を立てるように促されています。従って、東京都の地域医療構想が確定しないと当院の計画もこれ以上進められない状態にあります。さらに、総務省がいうには、今、建設費が非常に上がっているので、それがいずれ下がるであろうと。そこまで待てと。だけど、そんなこと言われたって、待っていられないと、私は思うけど、まあその辺の見極めが非常に難しいですね。今後いろんな人に意見を聞いていきたいと思っています。遅くともオリンピックが開催される2020年には着工はしたいと思っています。

■賛助会へ望むこと

賛助会として、自治体病院の公的な部分に配慮しながら、もっと情報提供を含めお役に立ちたいと思っています。

原副会長

私は、何とか病院の中で、事務的なことも含めいろんなことを勉強してもらって、自分たちで何でもできるようになってもらいたいと思っていますが、自治体病院というところは、事務職員が、本庁から来ては3～5年でまた帰っていくということがあり、知識がなかなか蓄積しにくい。特に用度などは、折角いろいろ覚えてくれても戻っていってしまうから、なかなか知識が蓄積出来にくい。従って、ベンチマークというか、他の病院はどうなのか、うちの病院はうまく買っているのかと云う事がよく分からない。そういった相場的な事を賛助会の方々に具体的に教えて頂ければ助かると思います。また、賛助会の各会社がどういうことを得意としているかよく分からないこともあるので、それも教えて頂ければありがたいです。

■個々の企業としてではなく、賛助会として公正公平な立場で取り組みしたい

我々賛助会も、協議会の病院の方々に賛助会のメンバーが何をやっているかきちんとお伝えできていないので、賛助会に何を質問すればいいのかお分かりにならないのだと思います。是非、機会を頂いてお知らせできればと思います。そして、実際に協議会からご質問頂ければ、賛助会の会員である個々の企業から単独にご回答するのではなく、公的な部分を考慮し、公正公平な対場で賛助会から回答させて頂きたいと考えています。

お役立ち情報

収益向上のための病院広報戦略

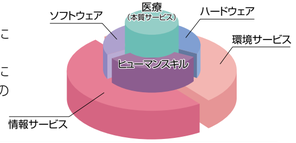
賛助会　第5ブロック

お問合せは
全国自治体病院協議会・賛助会
http://www.jmha-p.net/

1 医療の提供は「サービス業」である

医療サービスの概念は本質サービスである医療を中心に、成り立っています。
医療満足は、中心部の「本質サービスの充実」に加え、表層部をなす情報や環境による「表層サービス」を充実させることで実現されると言われています。
現代の医療サービスは、本質サービスの医療のみでは完結せず、もう一つ外側にあるソフトウェア・ハードウェア・ヒューマンスキルという機能が無くては本来の基本サービスは成り立ちません。

医療サービスの概念



2 広報はサービスの満足度を高める

広報はわかりやすい院内表示や広報誌などでの、さまざまな情報提供により「表層サービス」を強化するだけでなく、サービスの満足度を高める効果を果たします。特に、目に見える院内風景や掲示物、掲示板などのデザインや、スタッフのさりげない態度や、わかりやすい説明・助言、身だしなみなどが広報の重要なポイントになります。これにより患者が医療機関に対し安心感や信頼感を持つようになます。その結果、本質サービスである医療もますます成果を上げやすい環境となり、患者への満足度は、よりよいサイクルを始めます。

3 病院広報の対象と手段

病院広報のコミュニケーション対象は、院内外に広く及びます。また、病院における具体的な広報の手段は、近年さまざまな方法がみられます。
例えばイベントの開催や広報誌の刊行、院内サイネージシステムの導入などです。しかし、規模、目的、対象などによっては、その事例をそのまま真似をしても効果が上がるとは言えないようです。独自の考え方で身の丈にあったことを実行してこそ本来の病院広報の価値があるといえるでしょう。

様々な病院広報の手段

- イベントの開催
- 医療ボランティア
- 地域医療懇談会
- 広報誌の刊行
- インターネット
- 広告（駅看板、院内広告など）
- 著名人支援や診察券の活用など

■病院見学レポート

賛助会から16名が参加し、平成27年8月26日に公立刈田綜合病院を見学させて頂きました。当日は施設見学として外来･免振装置･外部テラス･病棟だけでなく院内保育所までも案内して頂きました。
建物としては、低層病棟の長方形1棟でありレイアウトが非常にシンプルなのが特徴でした。そのため、患者からはどこに行くにも分かりやすいとの評判を頂いているとの事でした。
その後、東日本大震災時の病院内での状況等についてお話をして頂きました。
免震構造が地震時どのように働いたか、エレベーターが非常停止した際、院内の様子はどうであったか、今後検討すべき事項等、現場の生の声をお聞きしました。
特に興味深かったのは、停電のためエレベーターが動かなくなり階段を上がり下りするしかなかったものの、ごちらの病院の特徴の一つである低層建物であったことが幸いし、高層建物に比べ苦労は格段に少なかったとの事でした。このことは、昨今建物が高層化傾向にあることを考えると、非常に考えさせられました。
また、災害対策についてもお話をして頂きました。災害対策の一つに燃料確保が上げられるとの事でした。このことは、災害時に重油の確保に苦労され、停電復旧したのは地震発生から3日後だったことから万が一に備える工夫が必要とのことでした。現在では、市内の燃料店と優先供給の災害協定を締結されておられるとの事でした。
大橋病院長、遠藤事務長を始め多数の病院関係者から親切丁寧に病院のご説明をして頂き参加したメンバー全員が勉強になったのはもちろんのこと、非常に有意義な見学会となりました。